

留 学 先 国 名 : アメリカ合衆国

留 学 先 校 名 : Brought of Manhattan Community College

留 学 期 間 : 2017 年 7 月 13 日 ~ 2019 年 7 月

ニューヨークは沢山の映画やドラマの舞台となったり、ブロードウェイミュージカルの劇場があったりする為、世界中から大勢の観光客が訪れる街です。観光客が訪れる代表的な場所は Times Square で、大きな看板が朝から晩まで消えることなく輝いています。

私は多国籍な人々が暮らすニューヨークで、大勢の人と接することで沢山の文化に触れたいと思いニューヨーク留学を決めました。しかし、ニューヨークの賑やかな街並みに憧れを抱いていたということもニューヨーク留学を決める上での大きな理由でもありました。

ニューヨークに来てからの初めの2ヶ月は、本当に毎日が楽しくて仕方ありませんでした。毎日 Times Square に行っては看板を見上げて、きらびやかなこの街並みにただただ魅了されていました。また、路上や、電車の駅、車内で楽器を演奏している人が多く、街中が音楽に溢れている為、まるで映画の世界にいる様な気持ちになっていました。「ニューヨークは夢の街」という言葉に疑いさえを抱いてはいませんでした。

しかし本格的に学校が始まり、ニューヨークの生活に慣れて来た時、「本当のニューヨーク」を感じ始めました。日本の学校で、自分の当たり前は必ずしもほかの人の当たり前とは限らない、だから違う文化も尊敬しなくては行けないと学んだことがありました。幼い頃から海外留学に強く憧れていたこともあり、文化の違いには理解がある自信がありましたが、ニューヨークでは今でも文化の違いに悩まされることが多いです。これは、多国籍の街ならではだと思えます。1つの文化を理解できて来たと思えば、また新しい文化と出会い。ある文化では良いとされていることが、またある文化では違う評価を持っていることもあります。

文化の違いの壁にぶつかっている中で、一つ気づいたこともあります。日本の英語教育で必ず扱い、私も中学生の頃に英語の授業で習った挨拶“Where are you from?”で人を傷つけてしまうことがあると言うことです。

私は学校で初めてあった人に使う挨拶として習いました。私も当たり前の様にこの「挨拶」をしてしました。多国籍なニューヨークには、多くの移民としてこの街に移り住んでいる人がいます。中には国籍はアメリカではないけれど、生まれも育ちもこの街でこの街から出たことのない人も多いです。多くの日本人にとって“Where are you from?”は軽い挨拶でも、彼らにとってはとても深刻な「質問」になることもあるからです。

私はこの様な意味合いの違いに悩まされることが良くあります。なので、これから留学を考えている人には是非、一度改めて当たり前だと思っていることについて考えて見てもらいたいです。